

1【学校経営の理念】
●教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」
●校訓「貫徹 慎独 創造」
●校 是「和」
2【本年度の教育の重点課題】
1) 自立して未来に挑戦する態度の育成
2) 「生きる力」を育む教育の推進
3) 子どもたちの学びを支える環境の充実

Main evaluation table with columns: 主な評価項目・取組内容, 達成状況, 学校の取組状況(○・▲)及び改善の方策(※)等, 学校関係者評価. Rows include 教育目標・開かれた学校・職場づくり等, 教科等指導, 小中一貫教育, キャリア教育.

	主な評価項目・取組内容	各項評価 R4	達成状況	学校の取組状況(○・▲)及び改善の方策(※)等	学校関係者評価
特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育	28 インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られていると思いますか。	A	○校内の点字表示やエレベーターの活用等、施設や設備の整備ができています。	○インクルーシブ教育に向けての校内研修を進めることができた。教室の環境整備や授業で使用するチョークの色などにも配慮している。	<特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育について> ・生徒においては道徳を元にした行動の変化が見られているのではないかと今年も読み取れました。今後時間を惜しまないで教育に当たって欲しい。
	29 校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われていると思いますか。	A	○特別支援コーディネーターを中心に、個別の指導計画や教育支援計画、サポートファイルの共通理解を図ることができた。より使いやすいように改善を進めた。	○道徳では拉致問題に積極的に取り組むなど、具体的な試みが成果につながった。	・道徳が教科教化されました。より重要視されるということである。しっかりと道徳教育を行ってほしい。
	30 生徒や保護者との合意形成のもと、小中・中高の「支援の引継ぎ」が組織的・継続的に行われていると思いますか。	A	○本校に通級指導担当教員が配置され、他の職員との連携をより深めることができた。特別支援コーディネーターの調整により、充実した指導となっている。	○道徳では拉致問題に積極的に取り組むなど、具体的な試みが成果につながった。	・特別な支援を要する生徒が増えてきていると聞いています。その子を理解して学級づくりをしていくことが大切である。
	31 「豊かな心」の育成を図る教育活動が推進されていると思いますか。	A	○慎独タイム(朝読書)に養父市人権作文集「なかま」を読む時間を設定し、人権意識を高めている。	○講師を招きデジタルシティズンシップ教育を実施することができた。	・人権作文集「なかま」を学校での読書に取り入れていることは、継続して欲しい。
	32 自他の生命を尊重する態度は育ちつつあると思いますか。	A	○昨年度、兵庫県気象災害モデル校として取り入れた防災教育のカリキュラムを継続実施することができた。	○SNS使用における課題が相変わらず多い。校区のSNSルールなどを示しながら指導を粘り強く進める必要がある。この課題の解消については、PTAと連携した取組を進める必要がある。	・あいさつや清掃などの基本的な行動様式はしっかりと身に付けていると感じます。
	33 「教科書」をはじめ「兵庫県道徳教育副読本」が効果的に活用されていると思いますか。	B	▲特別配慮が必要な生徒については、年度当初だけでなく、サポートファイルの見直しや小学校との連携を適宜速やかに行い、目標に向けた取組ができる体制を整えたい。	▲「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をさらに有効に活用していく必要がある。	・引き続き、新型コロナ感染症には、学校でも注意をいただき、教師生徒が感染しないようお願いしたい。
	34 道徳の評価を行うにあたり、学年職員で協力して評価内容・方法の検討を行ったり、共通実践を行ったりしていますか。	A	▲小学校から中学校へ、中学校から小学校へ、「支援の引継ぎ」の内容や方法、時期等について全職員が理解しておく必要がある。	※通級指導で行われている内容についての教職員の関心をさらに高める。	・健康、安全、防災に対しての生徒の対応は、大変良い評価だと思えます。自分で考え、自分で判断できる力を養っておくべきだと考えます。
35 ネットいじめやDV、多文化共生、男女共生、性的マイノリティなどの人権課題をとりあげ、校内研修を行うなど、人権尊重の精神涵養に向けた取り組みが進められていると思いますか。	B	※人権作文集「なかま」を慎独タイムの時間に読むことを継続する。	※外部人材を招いた人権に関する研修を行う。	・コロナ禍のため各地区の行事が軒並み取りやめになったり、地区内の付交流も十分にできていない。そのような状況で、心が不安定な子どもたちもいると思う。そういった子に何らかの形で、光を当ててやっていただきたい。	
36 防災教育など、健康・安全に対する指導は、的確に行われていると思いますか。	B	※兵庫県道徳教育副読本を保護者や地域の方に知ってもらう機会を増やすなど、道徳の指導内容への理解を深める。		・地域で行う防災避難訓練に中学生が参加することは継続して欲しい。素晴らしい取組である。	
学級活動・生徒会・部活動	37 生徒の自治性や主体性を引き出す生徒会活動が行われていると思いますか。	B	○「八咫青溪の目」ヒマワリの絆プロジェクトなどの具体的な取組が生徒会から提案され実施することができた。		<学級活動・生徒会活動・部活動について> ・教室の掲示物に工夫が凝らされている。学級経営に努力されていることが読み取れる。
	38 専門委員会の活動は継続的・発展的に行われていると思いますか。	A	○生徒会活動には積極的に取り組む生徒が多い。専門委員会への所属意識が高く、責任を持って自分の任務に取り組んでいる。		・学校行事が充実して楽しいという生徒が生徒アンケートで93%もいるのがとても嬉しい。
	39 互いに高めあおうとする集団になりつつあると思いますか。	A	○学年目標や学級目標を常に意識させ、生徒の成長を促す工夫が見られた。自己有用感のある学級づくりに向け担任は仕掛けや工夫を凝らしている。		・昨年と同じように、廊下に掲げてあった生徒会の呼びかけを見て、生徒も大変だと思いました。一方で、普段授業中の様子が見えた気がする。
	40 部活動を通して生涯学習・スポーツの基礎となる豊かな心やたくましい体が育っていると思いますか。	A	○学年の中で、前に出てくる積極的な生徒が増えてきたように思う。		・各活動から、明るく男女の仲がよい。教師と生徒の一体感がある。生徒の笑顔が大変良いと感じた。
	41 一人一人が生かされる学級づくりができてきたと思いますか。	A	○いきいき運動部活動のもと、部活動を生徒たちの生活の柱に位置付けている。その趣旨を顧問も生徒も理解し、成果を上げていく。		・部活動で学ぶことは多い。部活動の活躍が地域にもたくさん届いた1年でした。
生徒指導	42 規範意識の育成に努めていると思いますか。	A	○生徒指導提要の改定の趣旨を踏まえた指導を行っている。		<生徒指導について> ・生徒指導に懇切丁寧に対応しているのが分かる。一番大切なことなので、今後も引き続きお願いしたい。
	43 いじめの積極的認知や生徒指導に係る情報交換が行われ、安心・安全な学校づくりが進められていると思いますか。	A	○小中一貫教育での「5つの力点」(あいさつ・返事をする。履き物を揃える。等)を示し、校区全体で粘り強く指導を継続している。		・学年が上がるにつれて不登校生徒が減っていることは素晴らしいことである。引き続きそのような対応をお願いしたい。
	44 i-チェックや生活アンケート、いじめアンケート等による実態把握や教育相談等を通して、生徒理解を深める工夫がされていると思いますか。	A	○「チーム八咫青溪」を意識し、職員間(SC・SSWを含む)の情報交換は概ねよくできた。		・「学校でいじめのない学校生活を送っていると思いますか。」の問いに、各学年に評価1のクラスがあるのが今年も気になります。この質問は学校全体の平均値を出すことになじまないと思う。
	45 生徒指導の三機能(自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する)を意識した指導を行っていると思いますか。	B	○いじめの積極的認知が進み、生徒が安心・安全で過ごせる環境づくりは進んでいる。		・「楽しく充実した学校生活を過ごしていると思われるか。」と「生徒たちに思いやりの心や優しさを育てていると思われるか。」に大勢の生徒は「そう思う」と答えていますが、「そう思わない。」と感じている生徒が一定数いることが気になります。
	46 家庭と連携した指導がとれていると思いますか。	A	▲情報通信機器を用いたトラブルが今年も発生している。生徒への粘り強い指導と家庭と連携した取組が必要である。		・学校へ行くことが楽しいと積極的に思わない生徒が、24%もいることに驚きます。
	47 指導に対する教職員間の共通理解、「報連相」は十分にできていると思いますか。	A	▲様々なアンケートや調査については、しっかりと時間を確保して分析し、学級全体や各個人に対して具体的にアプローチをする必要がある。		・いじめの認知件数は多いが、教職員がしっかりと目をそちらに向けている証拠である。
	48 職員研修の推進方法・内容は現状でよいと思いますか。	A	▲生徒の「聞く姿勢」の指導や下校後の教室環境整備など、統一した取組を行う必要がある。		・SNSを取り巻く問題は年々、広がっている。SNSについて講師を招いて講演会を開くなど、学校だけでなく、関係機関と連携した対応が必要である。
研修・資質向上	49 兵庫県資質向上目標に基づきながら、「確かな学力」を育成できる教師として常に教材研究や修養に努めていると思いますか。	B	※SNS対策が喫緊の課題となっている。教員の研修と家庭への啓発活動を充実させる。		・不審者対応への対策が今後必要であると考えます。
	50 指導力向上、学力向上に向け、授業参観や助言を行うなど、互いの力量を高める努力を行っていると思いますか。	A	※いじめの積極的認知については引き続き取り組む。		・交通安全指導については、小学校とも連携して指導して行くことを考えましょう。協力できることは協力していきたい。
	51 職員研修の推進方法・内容は現状でよいと思いますか。	A	※SC・SSWとの連携を深め、生徒支援のみならず、家庭支援の体制を強化する。		<職員研修・教職員の育成・資質の向上・その他について> ・授業参観でICT機器の活用が多く見られ、日頃から研修されていることがよく分かりました。保護者アンケートと生徒アンケートにおいて、親と子どもが同じように感じている課題がある項目については、そのことに対する研修を行うなど、改善していくべきである。